

# 保健師 最前線

その人の人生のきっかけになりたい

南丹市

前 博子さん



人と関わる仕事をしたいと思ったのがこの仕事を目指したきっかけだ。病院勤務時代に、何度も入退院を繰り返す患者さんを診て、地域でももっとできることがあるはず、人の生活に関わる場所から変えていきたいという想いを強くした。

現在、業務的には乳幼児健診が前さんの担当だが、南丹市では地区担当制も導入していて、旧園部町に就職して以来ずっと園部地区を担当している。以前、乳幼児健診で指導に関わった母親と特定健診で会うことなどもあったりして、つながりが見える現在の配置にやりがいを感じている。

「発達支援のための“遊びの教室”も母親と関係を築くことができれば、必ず教室に来てくれますね。不安でいっぱいだったお母さんの変化が目に見えて分かります。」

日ごろの行動から見える課題を伝え、特性を理解してもらうことで、子どものいいところと一緒に伸ばしていきたいと話す。

南丹市は、平成 23 年度の機構改革により「国保医療課」と「健康課」が合体して「保健医療課」となった。国保担当の部署と保健師が所属する部署が一つになったのだが、とても画期的なことであり嬉しい変化もあった。行政という立場から費用対効果が求められるのは当然のことだが、保健師として予防に力を入れたところが、すぐ目に見えて成果があるものばかりとは限らない。なかなかそうした思いを伝える機会もなくて、もどかしく思っていたが、部署が一つになったことにより少しずつ気持ちが共有出来てきたと感じている。

今は本当に地域に出ることが楽しい。「自分に関わることで、相手の人生が良い方向に向かうきっかけになれば、こんなに素晴らしいことはない」と語る。

「保健師はとっても心が熱いんです。現在南丹市には 18 人の保健師がいますが、それぞれのカラーを出して素敵なまちづくりができればと思います。」